



農林水産省のミツシヨン

～食を中心とした限りないフィールド～

農林水産省 近畿農政局

1. 農林水産省について
2. 農林水産業の課題
3. キャリアパス・職場環境
4. 採用案内
5. 近畿農政局若手職員紹介

1. 農林水産省について

VISION STATEMENT

ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、

いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を

未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

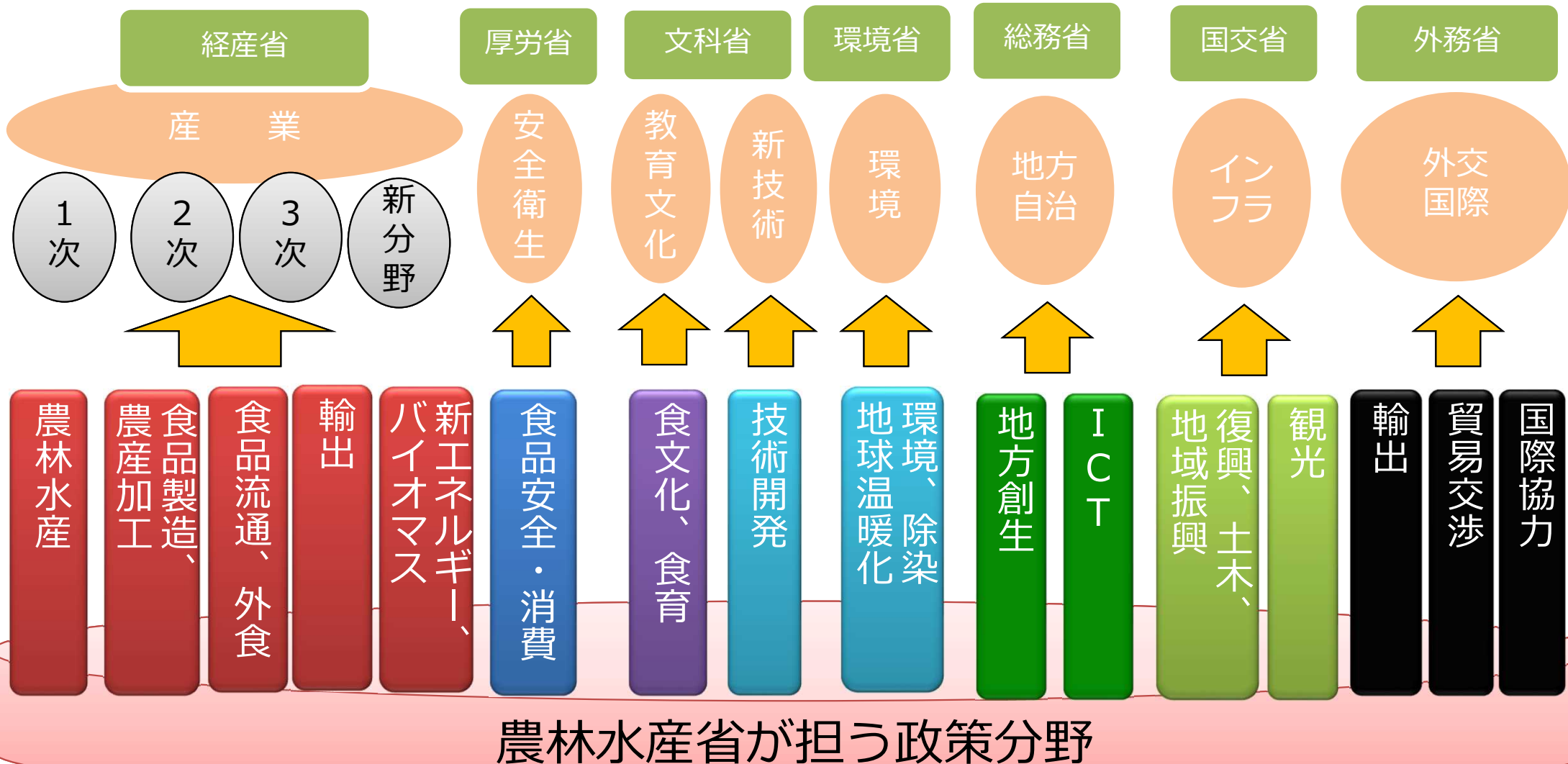
常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。

農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「総合政策官庁」と呼ばれています。

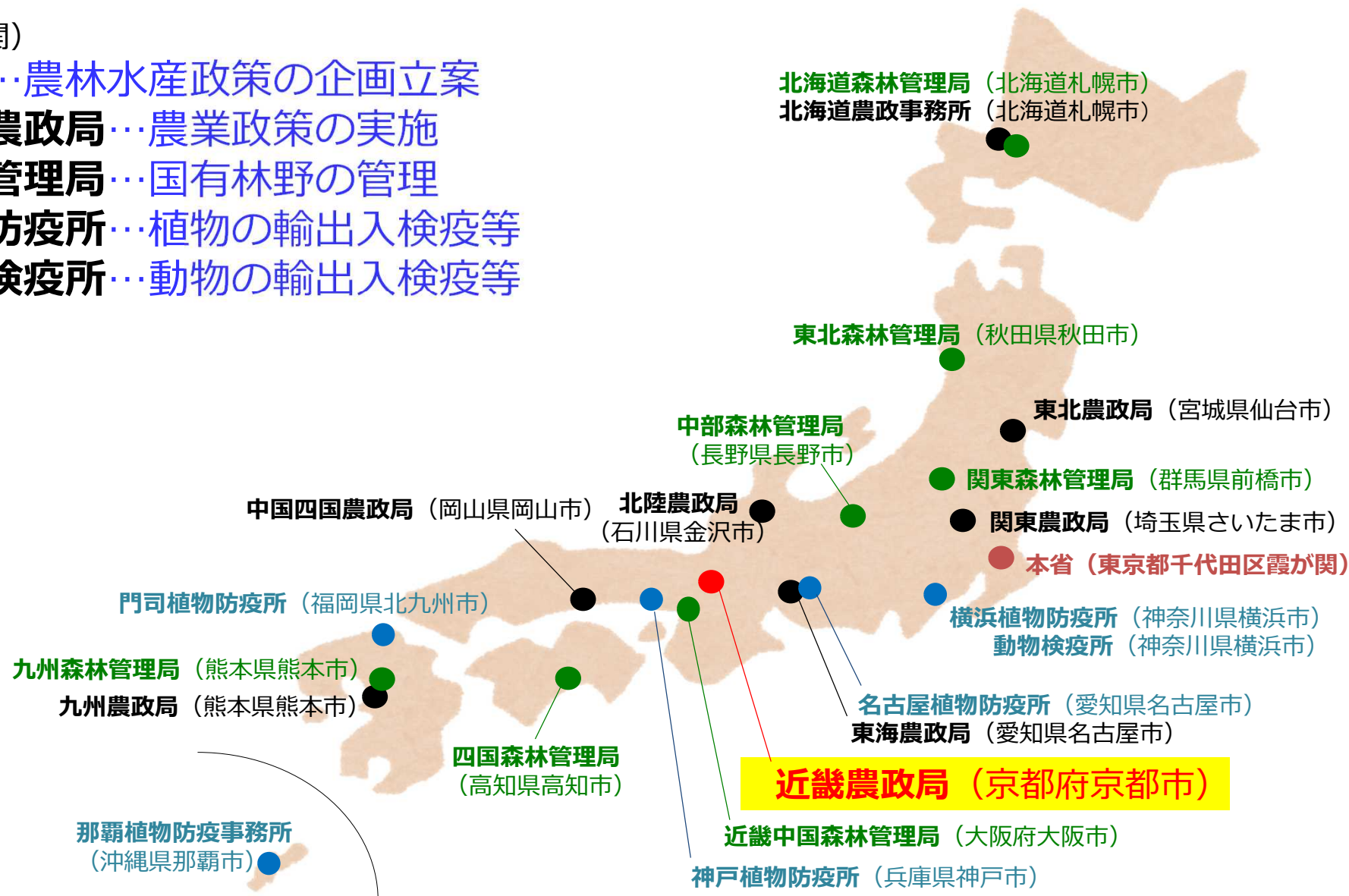


農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万5千人）で構成され、総定員数は約2万人です。

(主な機関)

- ・ **本省**…農林水産政策の企画立案
- ・ **地方農政局**…農業政策の実施
- ・ **森林管理局**…国有林野の管理
- ・ **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等
- ・ **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等

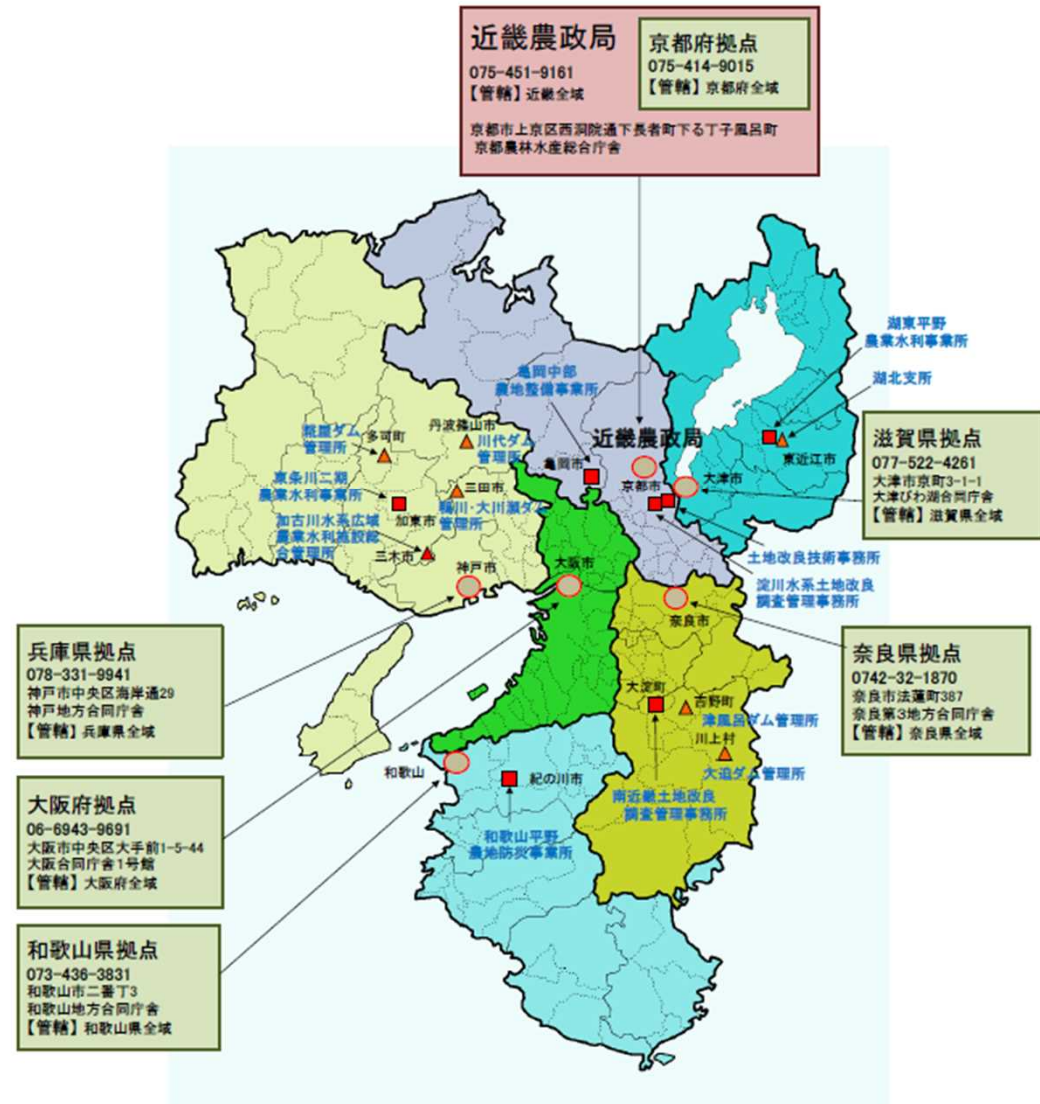


近畿農政局の組織

組織図



近畿農政局管内各機関位置図 (令和4年4月1日現在)



2. 農林水産業の課題

- ① 食料をめぐる課題
- ② 農業をめぐる課題
- ③ 農林水産省の政策

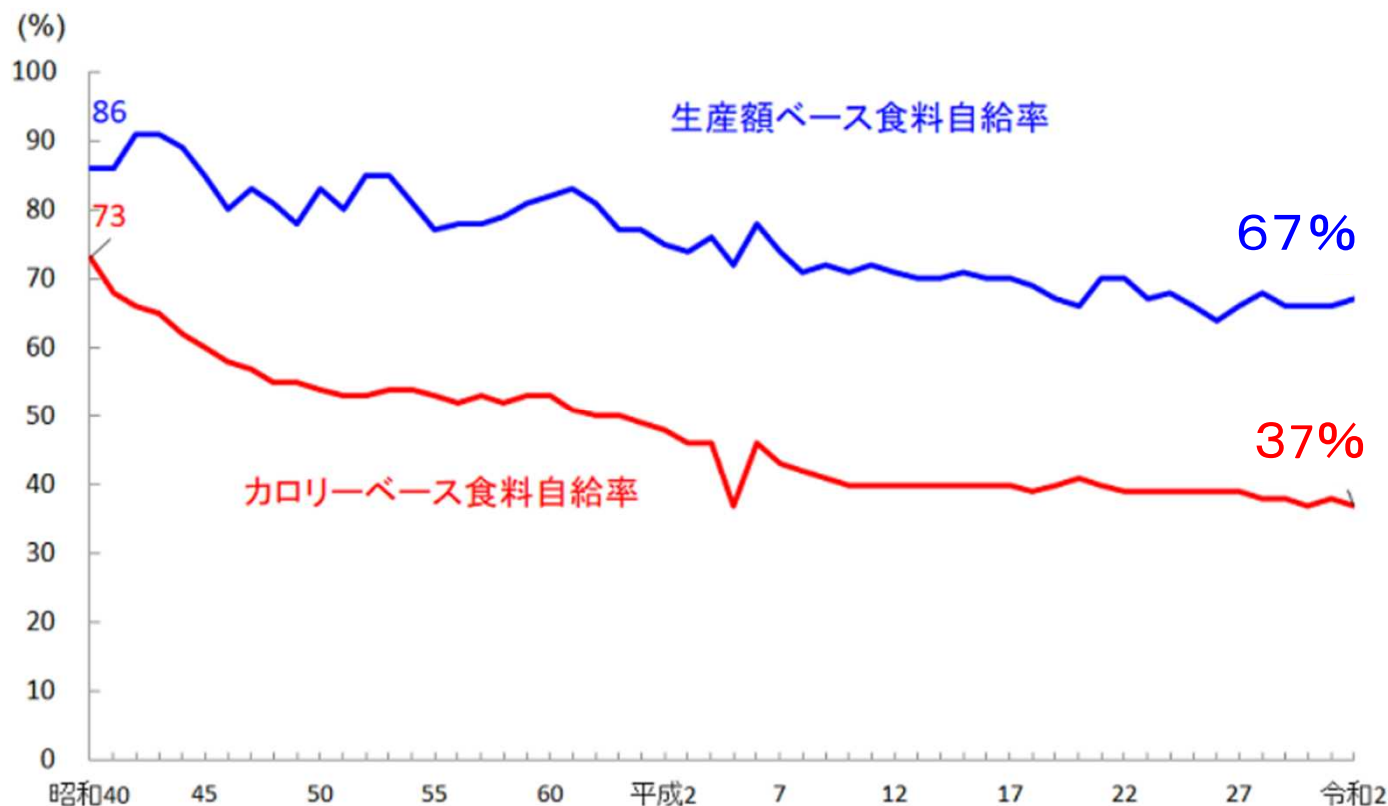
① 食料をめぐる課題

～国内外の食市場の変化と輸出促進～

食料自給率の推移

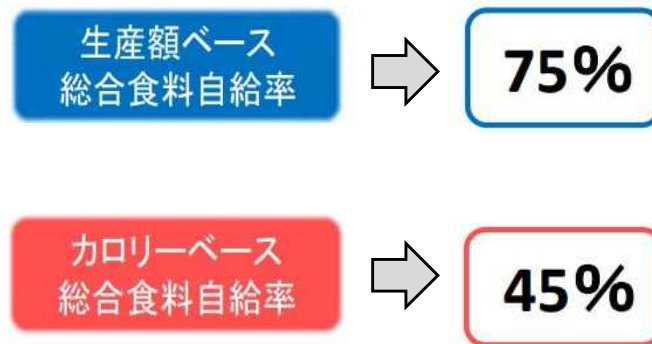
▼我が国の食料自給率は、長期的に低下傾向で推移してきましたが、カロリーベースでは近年横ばい傾向で推移しています。

▼国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料需給等に不安定な要素が存在していることを考慮し、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせることにより確保することが必要です。



食料自給率の目標

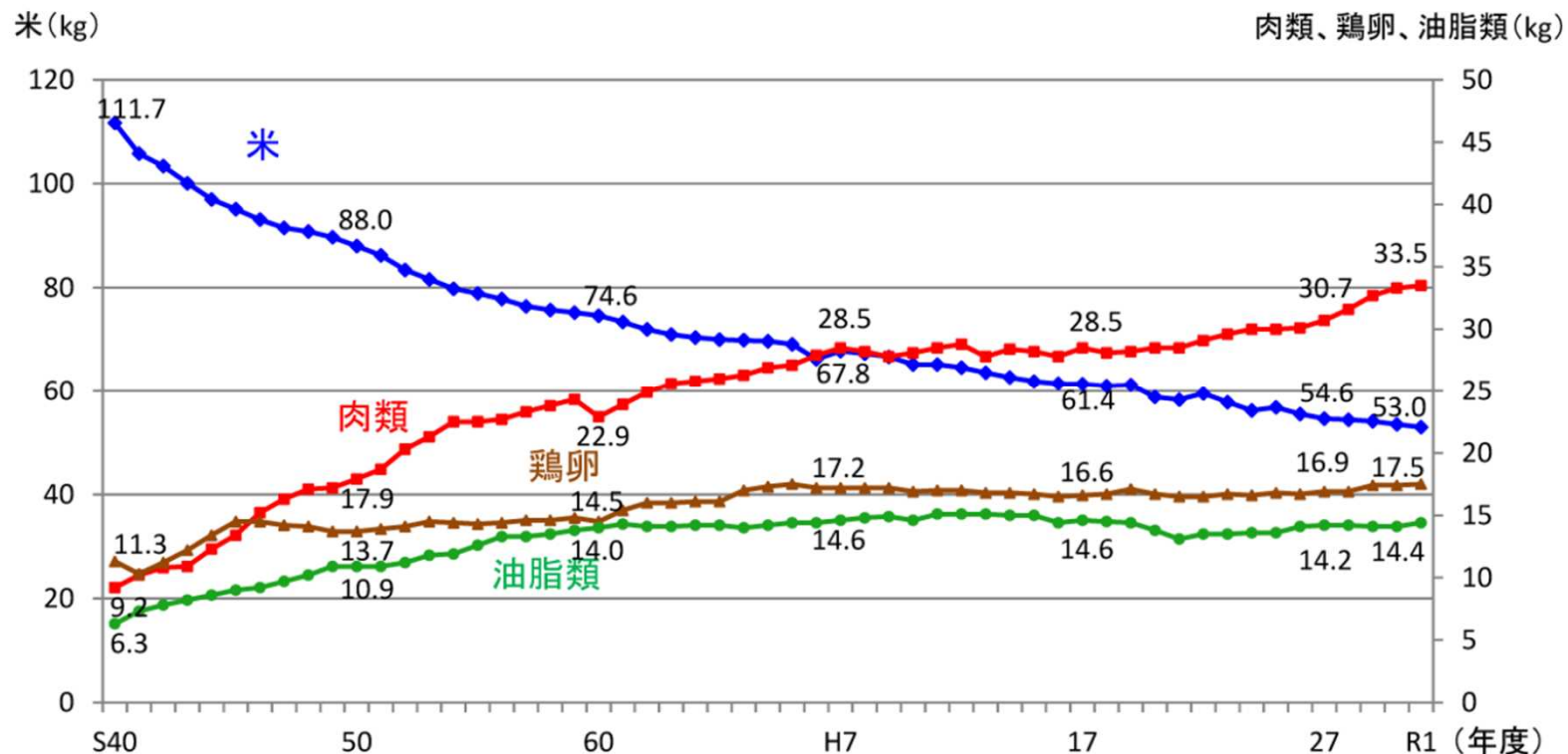
令和12年度(2030)
<目標年度>



食料消費構造の変化

- ▼食生活の多様化が進み、国産で需要量を満たすことのできる米の消費が減少し、飼料や原料の多くを海外に頼らざるを得ない畜産物や油脂類等の消費が増加した結果、食料自給率が低下しました。
- ▼需要の変化に応じた生産の推進や、消費面においても、農業と食品産業の連携強化等により、国産農産物の需要拡大を図ることも重要です。

米、畜産物、油脂類の1人・1年当たり消費量の変化

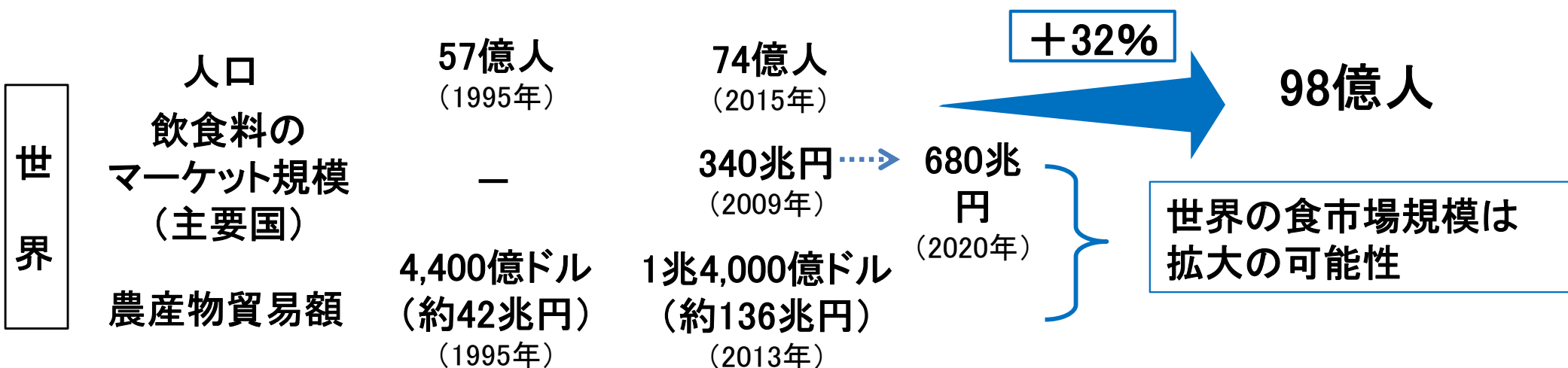
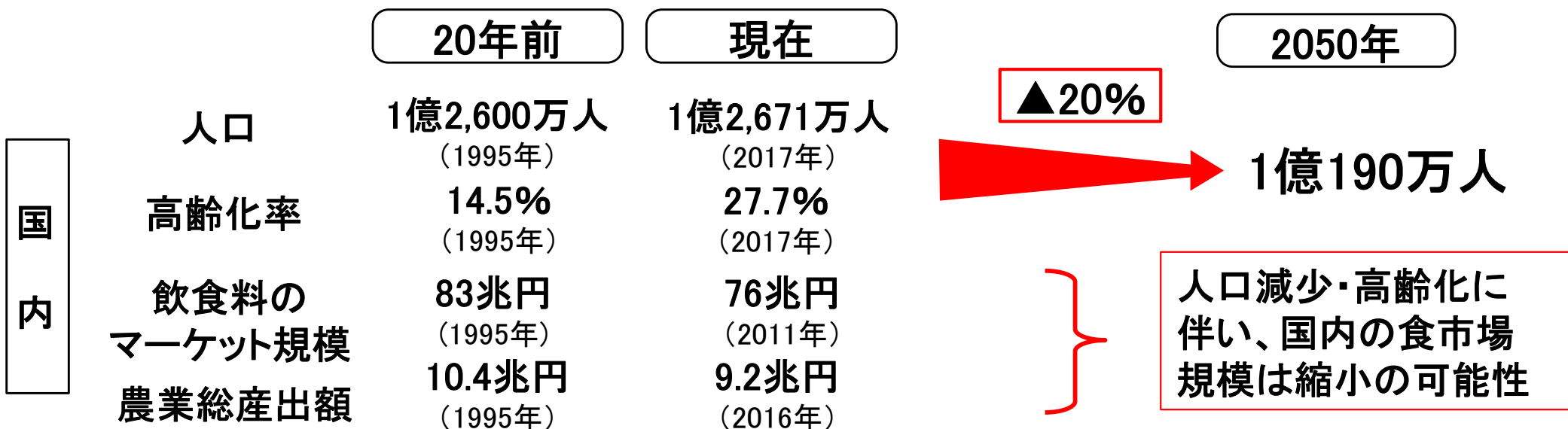


資料：農林水産省「食料需給表」

注：1人・1年当たり供給純食料を記載。

農政を取り巻く状況の変化

▼人口減少や高齢化に伴い、国内の市場規模は減少する可能性がある一方で、世界の農産物マーケットは拡大する可能性があります。



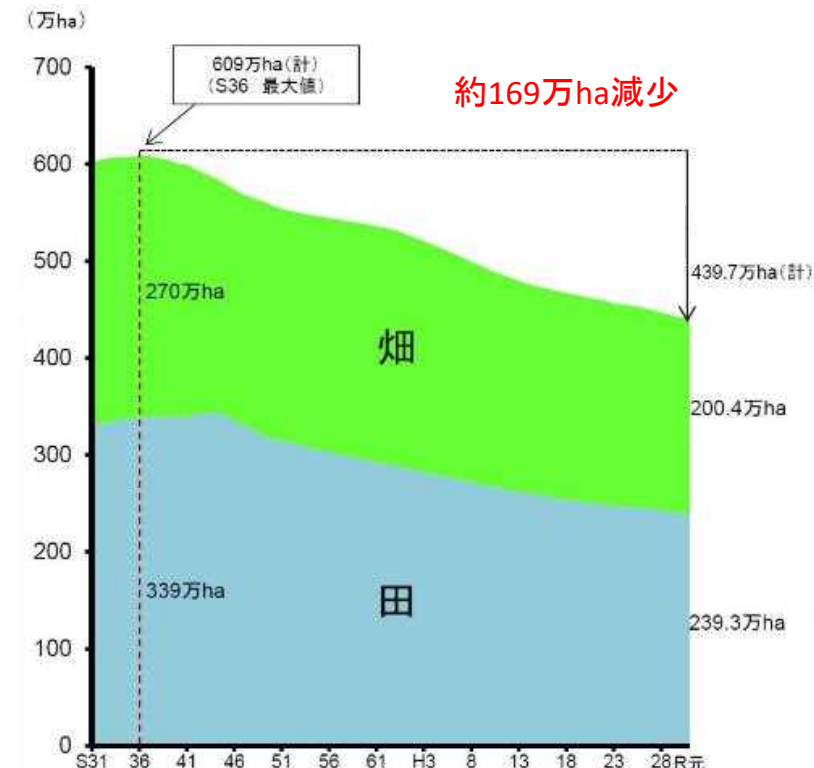
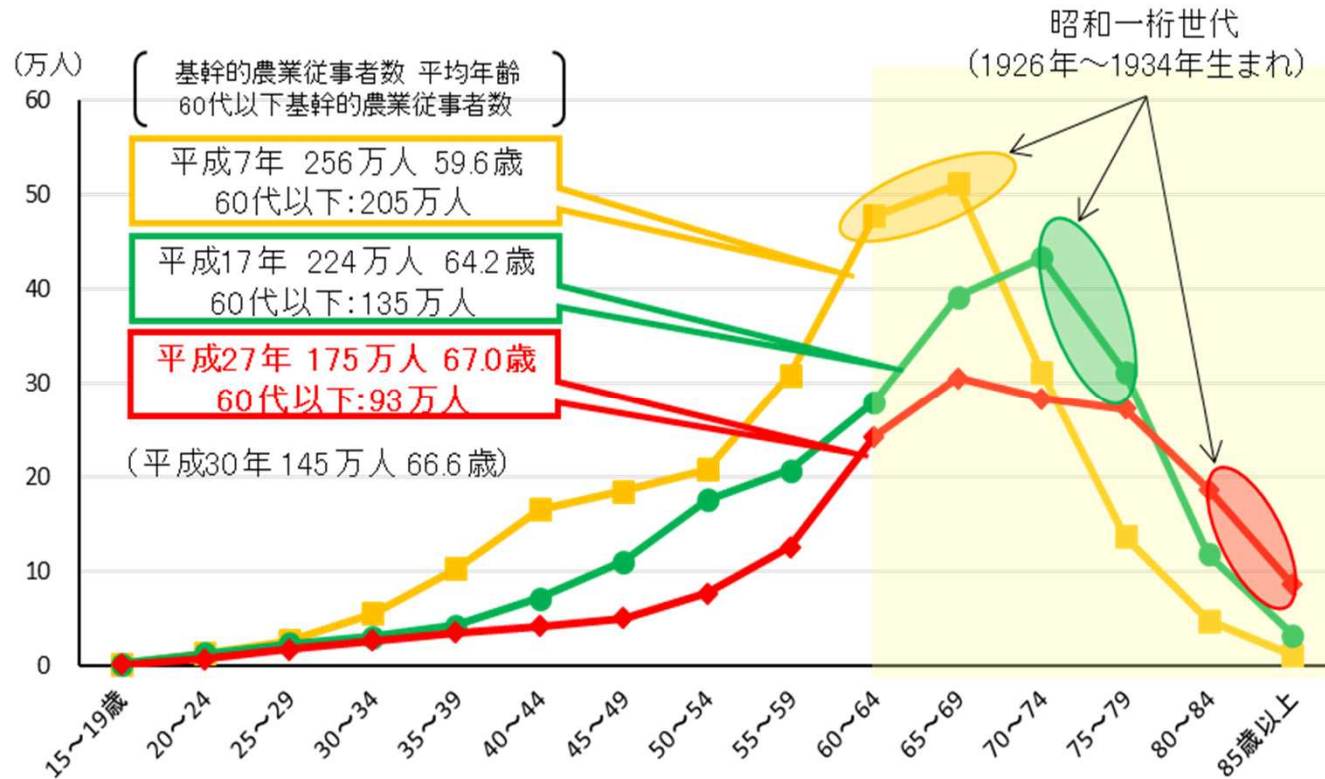
② 農業をめぐる課題

～強い農業を作るために～

(農業従事者と農地の現状)

農業従事者の減少・高齢化とそれに伴う農地の減少

- ▼日本の農業を支える基幹的農業従事者は、**高齢化が進み、平均年齢は67歳**です。
- ▼今後も昭和一桁世代のリタイヤや若い人材の他産業との獲得競争の激化等により、**大幅に減少**する見込みです。
- ▼農業従事者減少に伴い、農地面積も、この50年で**4分の3にまで減少**しました。



基幹的農業従事者: ふだん仕事として主に自営農業に従事した者。(家事や育児が主体の主婦や学生等は含まない。)
 農業就業者: 基幹的農業従事者及び雇用者(常雇い)

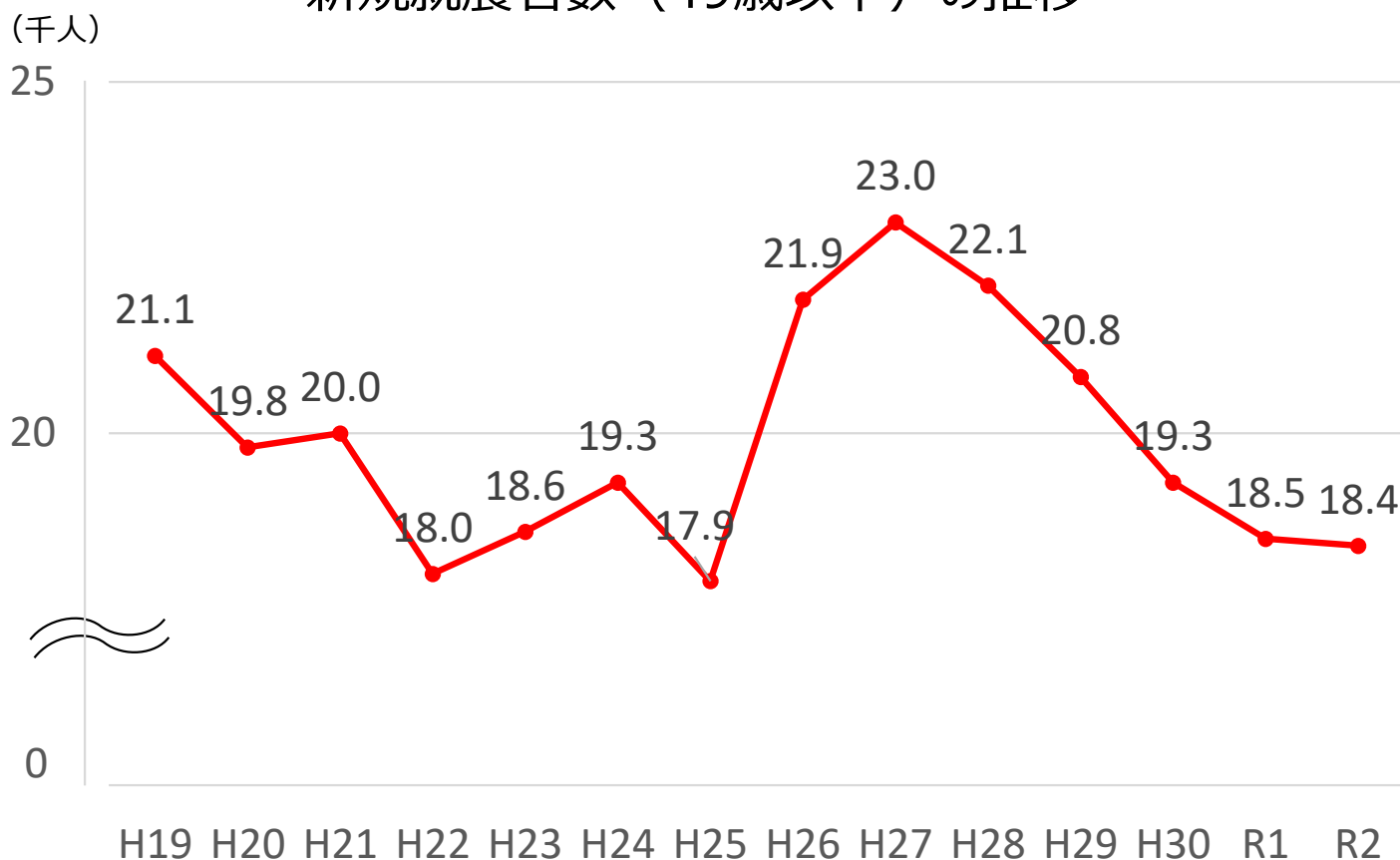
資料: 農林水産省「農林業センサス」

資料: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

新規就農者の推移

- ▼ 世代間のバランスのとれた農業就業構造の実現に向けて、青年層の就業者の増加が喫緊の課題。
- ▼ 49歳以下の新規就農者数は、近年はおおむね2万人程度で推移。

新規就農者数（49歳以下）の推移



農の雇用事業創設
青年就農給付金事業 創設
(現 農業次世代人材投資事業)

農の雇用事業

農業法人に就職した青年に対する研修経費として年間最大120万円を最長2年間助成

農業次世代人材投資事業 (準備型)

研修期間中、年間150万円を最長2年間交付

農業次世代人材投資事業 (経営開始型)

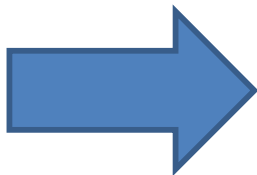
50歳未満で独立して自営する認定新規就農者に対して、年間最大150万円を最長5年間交付

(備考) 1. 農林水産省統計部「新規就農者調査」により作成。
2. H23～28年は、東日本大震災の影響で調査不能となった福島県の一部地域を除いて集計。

③ 農林水産省の政策

○ 現状

- ・ 高齢化する農業者
- ・ 減少していく農地



○ 目指すべき姿

若い人が農業に参入



なぜ、若い人が農業に入ってこないのか？

【目指すべき方向】

農業を職業の選択肢として魅力あるものに！

農業の成長産業化 = 儲かる農業

農林水産業の輸出力強化のための取り組み

- ▼輸出額は平成25年から8年連続で増加し、令和3年輸出実績は初の1兆円超(11月時点)。
- ▼輸出に向けて、グローバル産地づくりや、輸出向け施設整備に対する支援などを推進しています。

GFP(日本の農林水産物・食品輸出プロジェクト)

あなたを、
生産者の
日本代表にしたい。



100億人ではなく、
1億人を見据えた
農林水産業へ。

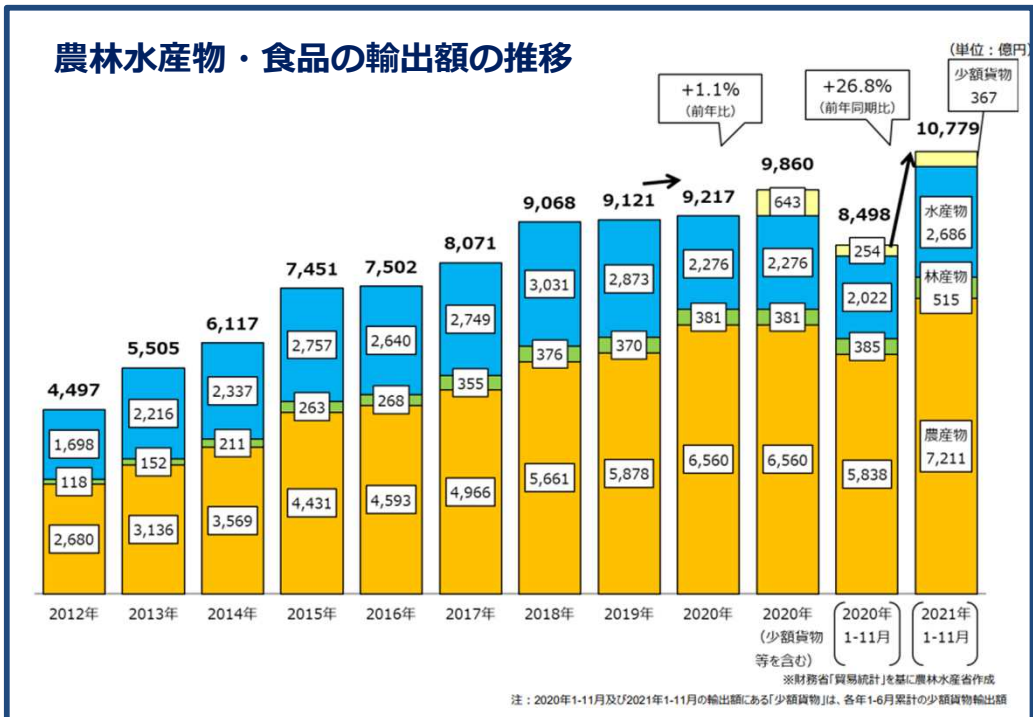
四季の豊かなこの国で、だれかを喜ばせたい一心で取り組む生産者のみなさんへ。
海外各国からのニーズが大きくなっている今、みなさんと輸出の成功事例をつくっていきたい。
このコミュニティにぜひ参加して第一歩を踏み出しませんか。農林水産省が全力でサポートします。



GFPのサービス詳細

- 輸出診断・訪問診断**
農林水産省がJETRO、輸出専門家とともに、生産現場等に訪問またはオンラインにて「輸出の可能性」を無料診断します。
- 訪問診断実施者フォローアップ**
各登録者の課題解消に向けて、GFPビジネスパートナーマッチング・デジタルカタログ・輸出塾等を通じてサポートします。
- GFPコミュニティサイト**
各登録者が、自分の商品やサービスをGFPサイトのマイページで発信したり、気になる事業者と直接コンタクトできます。
- 商品リクエスト**
輸出商社等が現地ニーズに基づく「商品リクエスト」を発信し、生産者との商談につなげるサービスです。
- グローバル産地づくり推進事業**
輸出先国のニーズと規制等に対応し、積極的に戦略を持って輸出への取組を行う産地形成を支援する事業です。
- 交流会・セミナーの開催**
情報交換、交流、知識の習得を目的としたセミナー等、多様なイベントを開催します。
- 情報発信**
会員限定メールの配信、Facebook G F P 関連の情報発信、G F P 登録者の発信のシェア等を随時行っております。

Facebookでも輸出診断の様子を紹介しています。



1 日本産食材サポーター店認定制度



民間が主体となり、日本産食材を積極的に使用する海外のレストラン・小売店を「サポーター店」として認定する制度を推進。日本産農林水産物・食品のユーザーである飲食店等を「見える化」し海外需要を拡大することで、輸出促進を図る。
実績進捗：6,069店（2021年3月末時点）

2 海外における日本食・食文化発信の担い手育成（外国人料理人の育成等）

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信し、我が国の食関連事業者等が海外展開をする際にパートナーとなり得る人材を育成。

- ①日本料理の調理技能認定制度
- ②「日本食普及の親善大使」によるセミナー
- ③海外の外国人料理人を招へいした日本料理店研修
- ④日本人日本食料理人の海外展開支援事業
- ⑤海外料理学校との連携
- ⑥外国人料理人による日本料理コンテスト



外国人の日本料理の技術を競い合う料理コンテスト（和食ワールドチャレンジ）



料理講習会（フェランディ料理学校）



日本料理店での研修

3 トップセールスによる日本食・食文化の魅力発信

総理、大臣等の国際会議出席や出張等の機会に合わせ、日本産食材を活用したメニューのレセプションを実施。



和食レセプション（2019年4月・ローマ）



ジャパンナイト（2019年1月・ダボス）



国連総会（2017年9月・NY）

4 日本食・食文化の紹介映像の制作・発信

様々なメディアを活用し、日本産品や日本食・食文化の魅力を発信する動画コンテンツを制作。各国で発信するほか、5年間の利用権を確保し、農林水産省のYouTube（maffchannel）での配信など、二次利用も実施。



【初音ミク】“OISHII” TRIP



【EURO NEWS】Taste

世界トップレベルの「スマート農業」の実現に向けて

▼スマート農業とは、**ロボット技術、AI、ICT等の活用により超省力・高品質生産を可能にする農業**です。

▼技術を早急に実用化・商品化し、**農業者による実装**を強力に推進しています。

スマート農業の例

- ・自動運転システム+高精度GPS → 省力化、無人化により**労働力不足を解消**
- ・センシング技術+ビッグデータ+IoT+AI → 精密農業の実現により**収量・品質を向上**
- ・ロボット技術 → 重労働や危険作業からの解放により**労働環境を改善**

⇒我が国は、スマート農業に活用できる要素技術の特許出願件数が世界トップクラス

農薬散布用ドローン

((株) ローソンファーム新潟 (新潟県))



- ・1haあたり10分で散布可能 (従来作業では1haあたり1時間)
- ・大手農機メーカー等から販売中

自動運転田植機

(農研機構実証ほ場 (埼玉県))



- ・熟練者並の速度と精度で作業が可能
- ・2019年度以降実用化

自動収穫ロボット

((株) 浅井農園 (三重県))



- ・AIによる画像認識により、収穫適期の果実を自動収穫
- ・大手メーカー等が開発中

農地の集積・集約化によるコスト削減

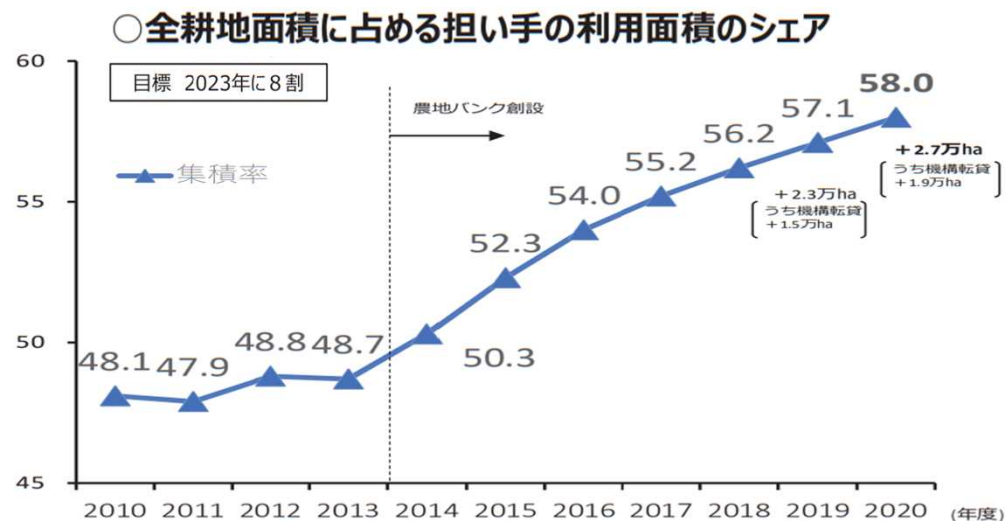
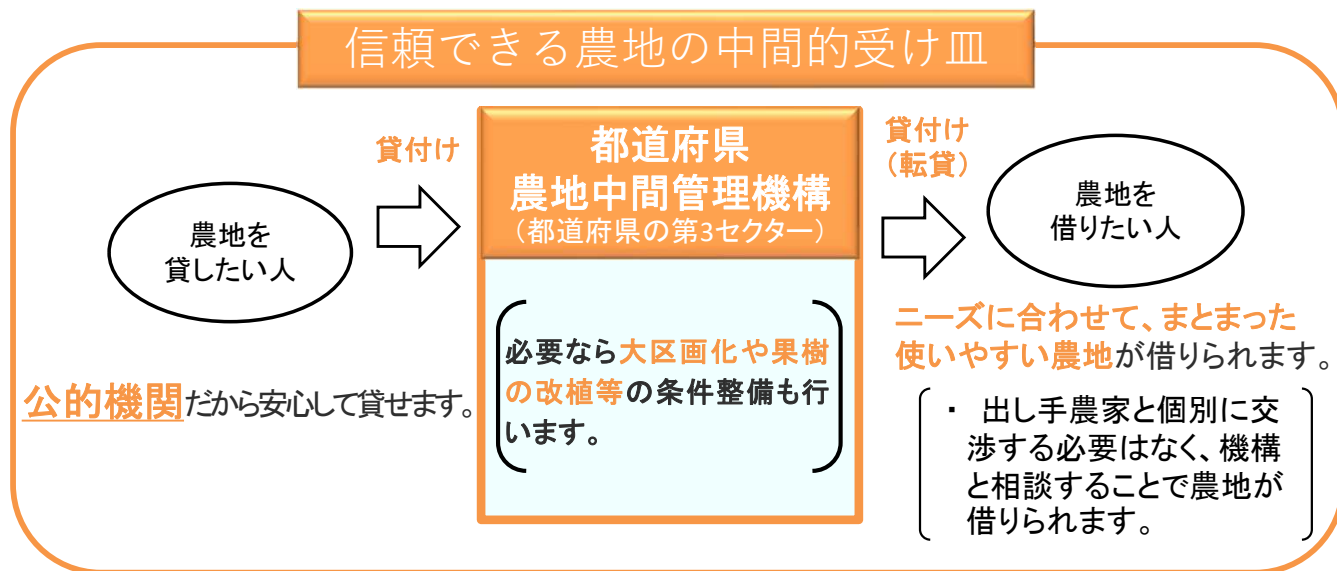
- ▼集積・集約化された農地で生産することで、コストを削減することができます。
- ▼農地の仲介者としての農地中間管理機構を活用するなどして、担い手への**農地利用集積率を8割**にまで高めることを目標にしています。



小規模零細で所有権が分散した経営構造



農地の8割を担い手に集積



観光ビジネスによる地域の活性化～農泊の推進～

- ▼ 「農泊」とは、農山漁村地域に滞在・宿泊し、豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。
- ▼ 国内外の観光客を呼び込み、農山漁村の所得向上と地域の活性化を図ります。

農泊（農山漁村滞在型旅行）



支援策

◆ 農山漁村振興交付金

魅力ある観光コンテンツを磨き上げる取組、古民家や廃校等を活用した滞在施設等の整備を支援



地元食材を活用した食事



古民家を活用した宿泊施設



地域資源を活用した体験

◆ 情報発信



動画(YouTube)による情報発信



農泊地域のプロモーション動画

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGs や環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork 戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

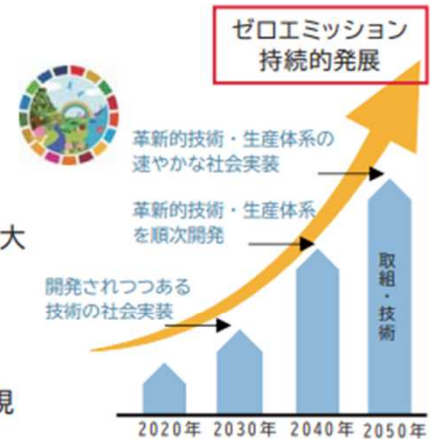
農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO₂ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

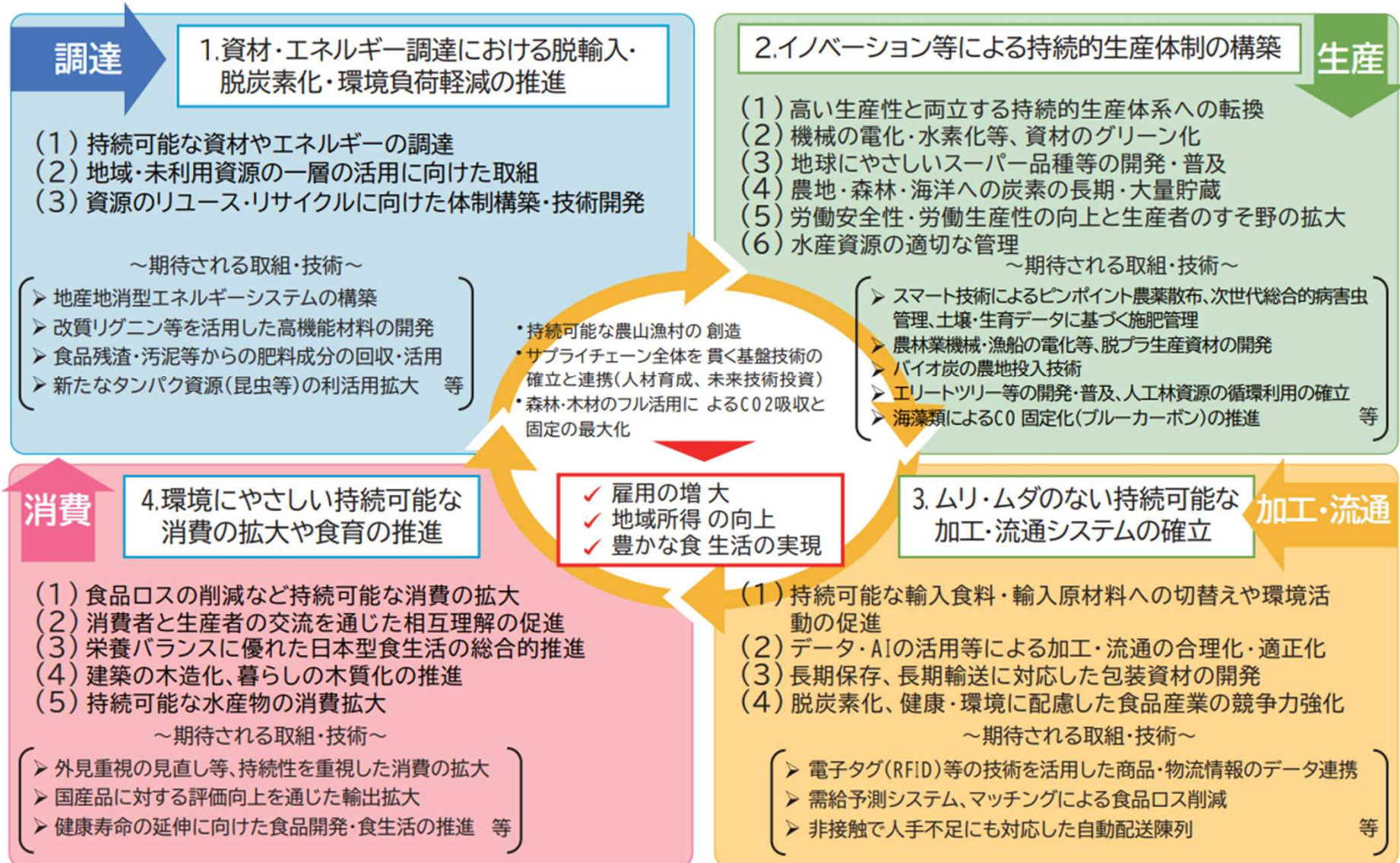
環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

みどりの食料システム戦略（具体的な取組） ～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～



3. キャリアパス・職場環境

入省後のキャリアパス【一般職・行政】

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。ただし、一度は本省での業務経験をしていただきます。
- ▼ 10年目頃までは、本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度で様々なポストを経験していただき、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。

本省及び地方農政局の
管理職



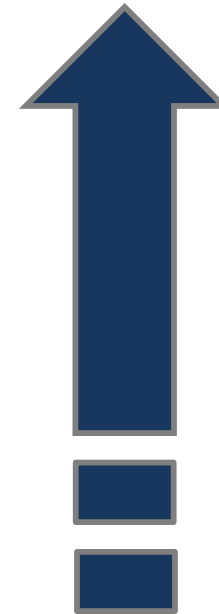
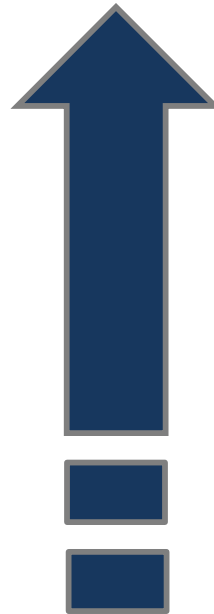
課長補佐
(17年目以降)



係長
(7年目以降)



係員



政策の企画立案
業務

行政の運営管理
業務



一般職(行政)採用後の業務について(業務内容の一例)

本省での政策の企画立案業務

地産地消の推進



(大臣官房新事業・食品産業部新事業・食品産業政策課国産消費企画班地産地消推進係)

- ・「地産地消等優良活動表彰」事業の企画・実施を担当
- ・地産地消コーディネーターの育成や地域への派遣を行う委託事業の管理を行う。

国際関係業務

(輸出・国際局国際戦略グループ)



- ・国連機関の会合での交渉(出張・テレビ会合)
- ・国際機関への拠出金事業の運営
- ・国際機関への職員の派遣に関する外務省、在外公館、省内関係部署との連絡調整や、国際機関からの各種発表の確認を行う。

農山漁村の活性化

(農村振興局 農村政策部都市農村交流課 農泊推進室)



- ・農泊の認知度向上・需要喚起のためのプロモーション活動を実施。
- ・実際の農泊地域と事業執行に関する調整業務を行う。
- ・地域活性化の優良事例を表彰する「ディスカバー農山漁村の宝」の調整業務を行う。

近畿農政局での行政の運営管理・施策実施業務

企画・広報業務

(近畿農政局企画調整室)



- ・局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- ・近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

予算・会計業務

(近畿農政局会計課)



- ・事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- ・予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- ・会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

人事・採用業務

(近畿農政局総務課人事第1係)

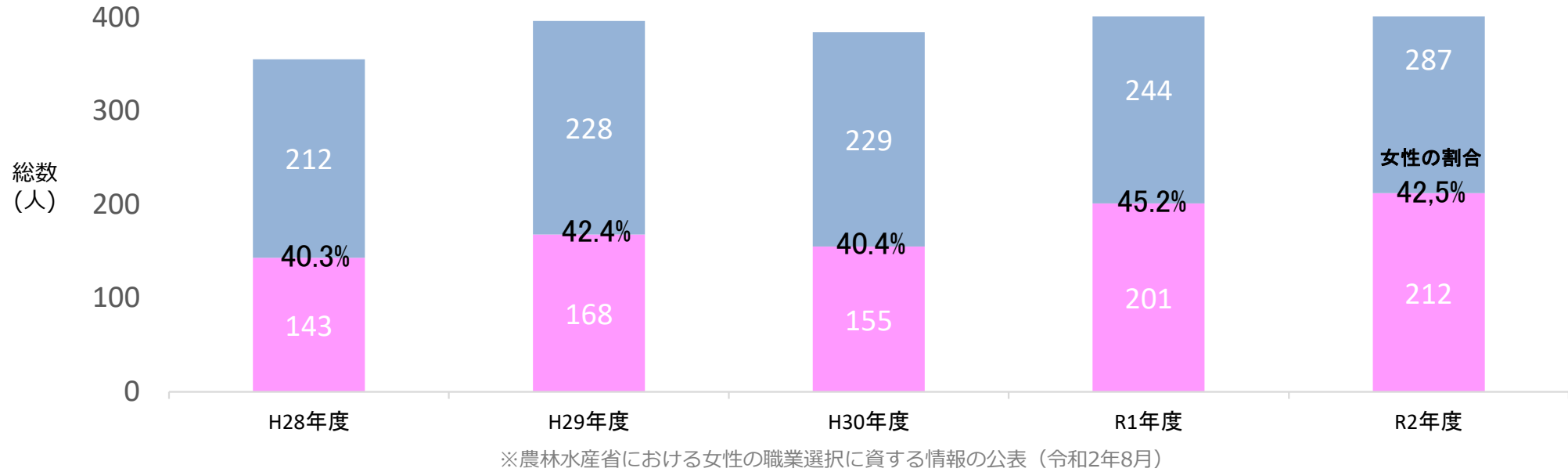


- ・人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- ・新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

職員の働き方(ワークライフバランス・子育て)

○ 女性国家公務員の採用状況

農林水産省における直近の女性公務員の採用割合は、**40%**を超えています。



○ 職員一人当たりの超過勤務時間 (一月あたり)

本省 (常勤職員)	24.2時間
地方機関 (常勤職員)	6.8時間
合計	11.1時間

※令和2年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。

現場を知る

○ 新規採用者研修

入省1年目の職員を対象に4月に合宿形式により行われます。公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識を講義形式で学ぶ【高尾コース】と、ほ場での実習や先進的な生産現場における現地研修を行う【つくばコース】の2本立てで実施しています。



○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて農業・農村の現場を肌で感じることを目的とします。入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に密着し、農作業体験の充実を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場の声を踏まえた施策を企画・推進するため、管内各部の幹部による講演や、外部講師を招いた講演などを行っています。

また、現場においてふさわしい礼儀作法を身につけることを目的に、ビジネスマナー研修も実施しています。



○ シンポジウム、セミナー

近畿農政局が主催する「和食シンポジウム」、「食育シンポジウム」などのシンポジウムや各種セミナーにも参加できます。



○ その他にも、さまざまな研修を実施しています！

4. 採用案内

求められる能力、資質とは？

主体性
・
積極性

農林水産業を取り巻く諸課題
(強い農林水産業の構築)への
対応

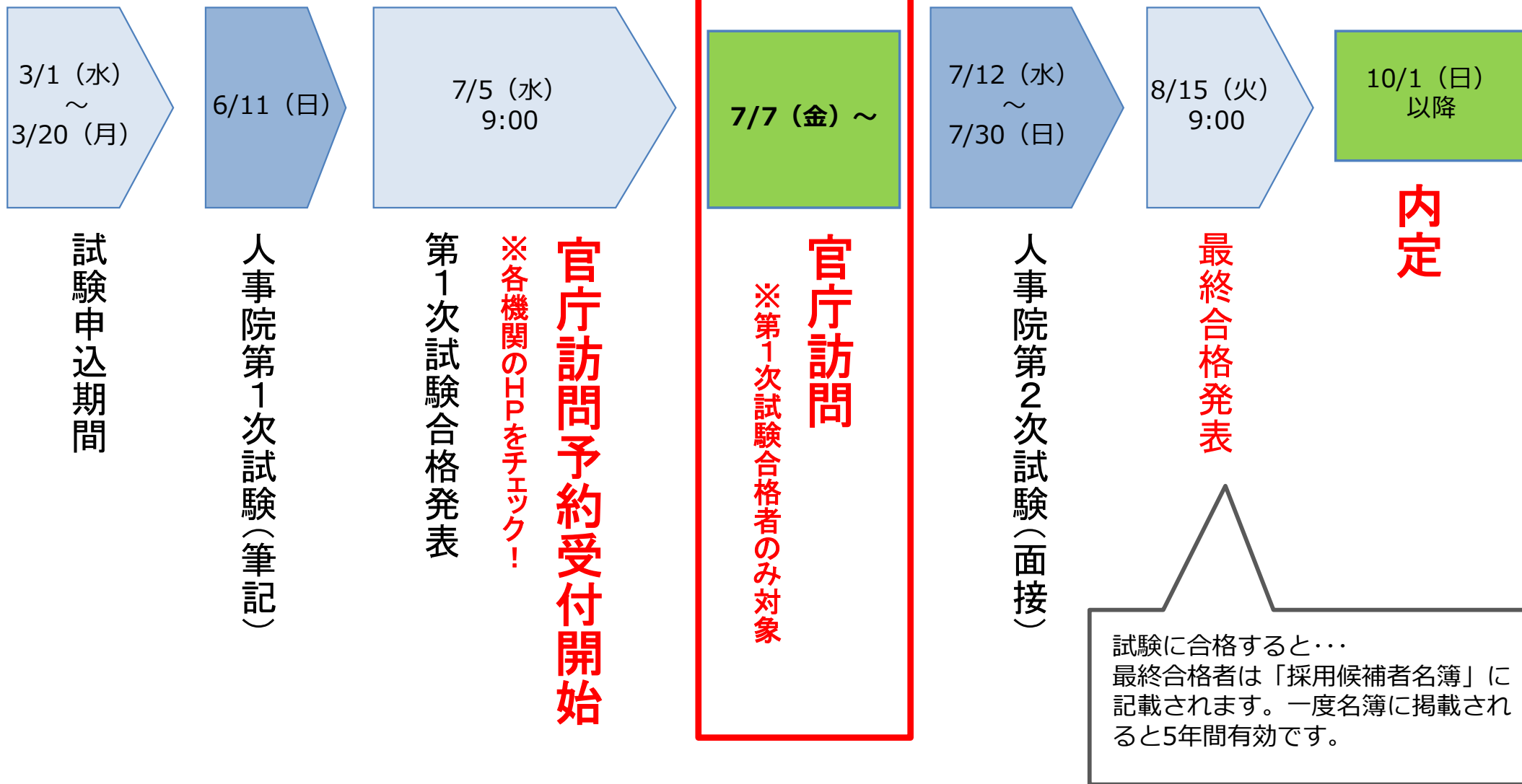
協調性

多様な職種の人材がチーム一丸
となって課題に挑む農林水産省
ならではの特徴

真面目さ

法律・制度を理解して、適確
に事務を処理できるか。

採用スケジュール(令和5年度国家一般職)



近畿農政局の近年の採用実績(一般職(大卒程度)行政)

近年は、採用時の配属先として、総務課や会計課での内部管理業務のほか、消費・安全部や生産部などの政策を実施するための業務でも活躍していただいています。

一般職（大卒程度）行政		
採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
平成31年度 (令和元年度)	10 (4)	総務課、会計課、農村振興部
令和2年度	7 (4)	総務課、会計課、農村振興部
令和3年度	11 (2)	企画調整室、総務課、会計課、 経営・事業支援部、農村振興部
令和4年度	10 (4)	総務課、会計課、消費・安全部、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部

5. 近畿農政局若手職員紹介



黒川 仁美

H27採用 生産部生産振興課豆類振興係

皆さんへのメッセージ

公務員試験では、大学の先輩から”面接を疎かにしないように”と聞いていたので、自分自身・志望先・公務員という職業について念入りに調べてノートにまとめ、面接の想定問と回答案を作っては、カメラに向かって毎日面接練習をしていました。

就職すると生活の大部分をそこで過ごすことになるので、何を重視して選んだらいいのかと悩むこともあるかと思います。私は、職場や職員の方の雰囲気にも強く惹かれたことを重視して決めましたが、今でも良かったと感じています。この文を見てくださっている方が、近畿農政局に来た際、同じように感じてくださると嬉しいです。いつか一緒に働けることを楽しみにしています。

～現場の課題・意識を感じられる業務～

Q1 今担当している業務は？

近畿管内の豆類の生産振興業務を担当しています。府県担当者から報告のあった大豆や小豆の生育状況を取りまとめるようなデスクワークをしたり、実需者(豆腐屋さん等)・学識経験者(大学教授等)・生産者など大豆の関係者に集まっていたり、生産現場(大豆のほ場)にて意見交換会・講演会を開催したりしています。農業現場での生産者の方々との意見交換会に参加させていただく機会もあり、「現場が抱える課題や問題意識」を直に感じられる業務環境です。

～新鮮な国産農産物を守っていききたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

新鮮な国産の農産物を守っていく仕事ができると考えたからです。就活をしている際、実家で新鮮な野菜を食べていて、この野菜が自分の子ども世代・孫世代になっても食べていけるのだろうか…とふと思ったことから、農林水産省について調べ、志望するに至りました。

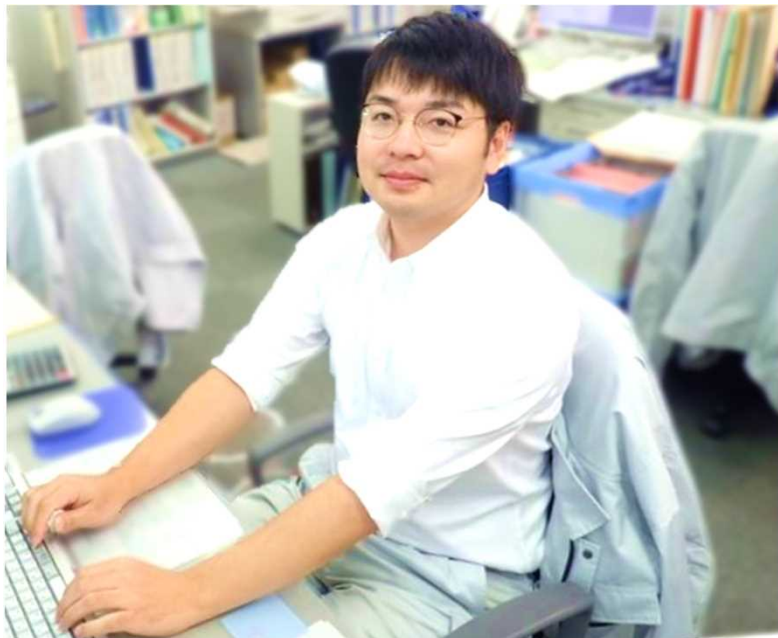
～周りのかたの優しいサポート～

Q3 職場環境について

現在所属している課だと周囲の方は農学区分での採用の方が多いのですが、行政区分で採用された私にも変わらず親切に接して下さいますし、直属の上司であるか否かに関わらず質問や相談に優しく対応してくれます。私は学生の時、社会人になるのがとても怖かったのですが、周りの方が優しくサポートして下さることで今まで続けてこれたと感じています。

有給休暇は1時間単位で取得できるので、業務を調整すれば「私用のため夕方2時間お休みを取って早めに帰らせてもらう」ということも可能です。大型連休に合わせて有給休暇を取る方も結構いて、非常に取得しやすい環境です。





立野 晃史

H27採用 和歌山平野農地防災事業所用地第一課補償係長

皆さんへのメッセージ

ぜひ、いろんな業務説明会に参加してください。そして、いろんな人の話を聞いてみてください。いろんな人の話を聞いて、ここで働きたいと思えるところを見つけてください。

就職活動で、皆さんの選択が後悔しない結果になることを祈っております。

～用地交渉が成立した時の達成感～

Q1 今担当している業務は？

私は、現在、近畿農政局の出先機関の和歌山平野農地防災事業所に在籍しております。和歌山平野農地防災事業では、農地や町に水がつかないように排水路や排水機場などの排水施設を整備しており、その中で私は、工事に必要な土地の買収や借地などを行ってます。

土地の所有者に納得していただくまで説明を行うため、交渉に何か月もかかる場合もありますが、交渉がうまくいったときは非常に達成感を感じることができる、やりがいのある仕事です。

～雰囲気自分が自分にあっている感覚～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

合同業務説明会で話を聞き、また官庁訪問のときに人事の方と話をしていくうちに、人事の方の雰囲気が自分にあっているな、私もここで働きたいなと思い、志望しました。

～非常に働きやすい環境～

Q3 職場環境について

近畿農政局は非常に働きやすい環境にあると私は思います。社会人になったらストレスを抱えることが多いというイメージを持っていましたが、入ってみて仕事をすると周りの方々がいろいろ助けてくれるので、ストレスを抱えることはあまりなかったです。

また、残業も、繁忙期を除き、ほとんどないですし、有給休暇も月一回以上取得しております。





下川 彩夏

H29採用 東条川二期農業水利事業所庶務課

皆さんへのメッセージ

なるべく多く官庁を回って、自分にあったところを見つけてください。実際、私もさまざまな官庁で説明を聞き、それぞれ違った雰囲気を感じましたが、近畿農政局は、職員のみなさんが穏やかで優しい方が多く、アットホームな雰囲気があり、ここで働いてみたいと強く思うようになりました。

もし、同じように近畿農政局で働きたいと思っていただけのなら、面接では、多少詰まっても自分の言葉でありのまま、熱意を伝えた方がいいと個人的には思います。

いろいろと悩むこともあるかと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください！

～幅広い業務に携わることができる～

Q1 今担当している業務は？

現在は、出先機関の東条川二期農業水利事業所で庶務を担当しています。主に、職員の給与計算、福利厚生、宿舍の管理、共済事務などを担当しています。当事業所は設置から間もなく、ノウハウの蓄積がないので分からないことや戸惑うことも多いですが、日頃から本局や他事業所の担当者と連絡を取り、より効率的な方法を試行錯誤しながら業務に取り組んでいます。本局に比べると、業務は広く浅くで、幅広い仕事に携われており、日々勉強させていただいています。

～誰もが密接にかかわる「食」に携わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食べることが大好きで、その一方で、食べ物が手つかずのまま捨てられることを常日頃からもったいないと感じており、食品ロスの問題に大変関心がありました。農林水産省では食品ロス削減のために、恵方巻きなどの季節商品の需要に見合った販売の推進や、飲食店での食べきり、持ち帰りの啓発など、さまざまな取り組みをしていることを知り、近畿農政局を志望しました。他にも誰もが密接にかかわる「食」に関する仕事ができるのは、とても魅力的だと思います。

また、他の官庁と違って本局が京都にあるので、休日には京都観光を楽しめるのもひとつの魅力だと思います！

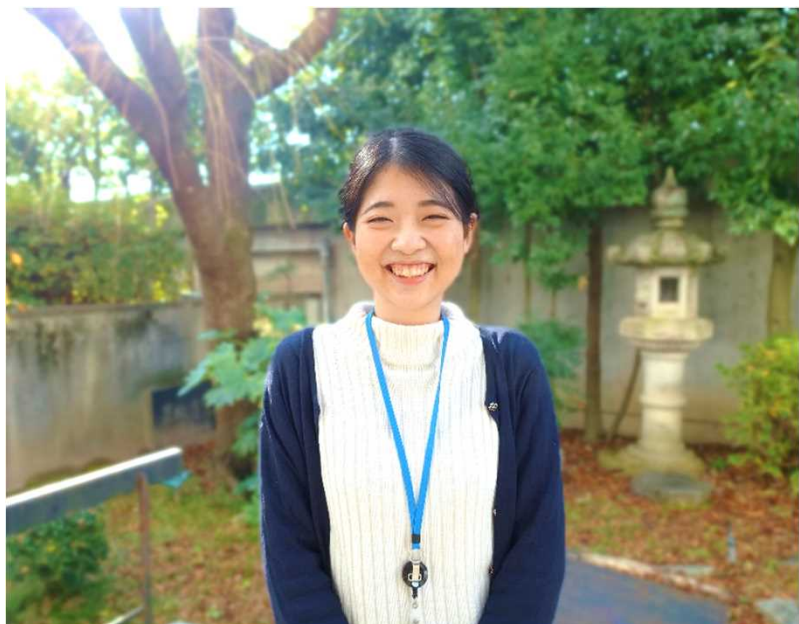
～アットホームな雰囲気～

Q3 職場環境について

現在の職場は職員数が10名ほどの小さな事業所なので、一人ひとりとの距離が近く、アットホームな雰囲気です。現在に限らず、これまでの部署でも、周囲の方は何か困ったことがあれば助けてくれますし、相談しやすい風通しのよい職場だと思います。

年休もとりやすく、私も月に1日は取得しています。また、育児休暇も、制度だけでなく、実際にとりやすい環境で、復帰している先輩職員もたくさんいます。





白井 梨花

R3採用 総務課支給係

皆さんへのメッセージ

公務員試験はどうしても、筆記試験の対策に力をいれてしまいがちになると思いますが、面接対策にも早い段階から取り組んでおいた方が良いと思います。様々な官庁の説明会に参加し、仕事内容や働いている人の雰囲気などをみて、志望動機を固めておくことが大切だと感じました。私は、各官庁で伺った話やその時自分が感じたことなどを、ノートにまとめておき、すぐに見返すことができるようにしていました。

就職活動は大変なことも多いと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください。一緒に働くことができる日を楽しみにしています。

～責任は大きい、やりがいを感じる～

Q1 今担当している業務は？

給与支給事務を担当しています。職員の給与計算は、基本的にはシステム上で行われるので、システムにより算出された職員の給与の額や手当が適切であるかを確認するのが主な業務です。毎月スケジュールが決められているため、締め切りを意識しながら緊張感を持って取り組んでいます。手当の制度など、業務についてわからないこともあります。その都度周りの方に相談したり書籍で調べたりして解決するようにしています。勉強することが多い分、日々成長を感じることができると思います。職員の生活に関わる業務ですので、責任は大きいですが、毎月の給与の支給が無事完了した際には、やりがいを感じることができます。

～「食」を通じて日本の発展を支えたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食は生きていくうえで不可欠というだけでなく、人間関係や文化の形成に役立ちます。重要な役割を担う「食」を通じて、日本の発展を支えるお手伝いができるればと思い、志望しました。

また、官庁訪問に参加した際に職員の方の穏やかな雰囲気をみて、ぜひここで働きたいと思ったことも志望した理由の一つです。

～質問しやすい雰囲気～

Q3 職場環境について

上司や先輩方はとても優しく、わからないことがあればすぐに質問することができる雰囲気があります。細かいことまで丁寧に教えてください、日々感謝しています。官庁訪問で持ったイメージと良い意味で大きく差はなかったように感じています。

残業についても、繁忙期以外は定時で帰ることができていますし、定期的に休暇も取得できます。仕事とプライベートが両立でき、働きやすい職場であると思います。





磯部 佳孝

R3採用 企画調整室

皆さんへのメッセージ

時間の許す限り、様々な業界・団体の説明会やインターンシップ等に参加してみるのがいいと思います。私自身、多くの説明会等に参加しましたが、業務内容だけでなく、その職場の雰囲気や考え方等、資料だけではわからないことも知ることができ、志望動機や「働く」ということのイメージがより鮮明になりました。もしかしたら、思いもよらない職場との出会いに恵まれるかもしれません。皆様が悔いなく就職活動を終わられることを祈っております。

～知識が身につくたび成長を感じる～

Q1 今担当している業務は？

農林水産省が行っている各種施策について、近畿農政局内の各部署や農林水産本省との連絡調整を主に行う総括業務と、近畿農政局ホームページの管理業務を担当しています。

総括業務では、施策や仕事の進め方について分からないことも多くありますが、その都度上司の方や担当部署の方に教えていただきながら進めています。学ぶべきこともたくさんありますが、新たな知識が身につくたびに成長を感じています。

ホームページ管理業務では、公開前の新しいページや既存のページを事前にチェックする過程で、農政局の様々な取り組みや農業者様・関連事業者様の様々な活動に目を通す機会があるため、政策や制度が現場でどのように取り組まれているのかを知ることができて、非常に面白いです。

～生産者・消費者の両側から「食」を支えることができる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私自身、食べることが好きなので、何かしら「食」に関わることでできる仕事に就きたいと漠然と考えつつ様々な説明会を回っていたなかで、近畿農政局の説明会を聞き、興味を抱きました。何度か説明会や座談会を重ね、実際に生産者側・消費者側の双方向から「食」を支えることができる仕事内容に魅力を感じ、また対応いただいた職員の方々の人柄に惹かれたため、志望するようになりました。

現在はコロナ禍であまり機会は多くありませんが、出張等で農業者様等の生の声を聞くことができることができるのは、農政局ならではの魅力ではないかと感じます。



～丁寧に教えてもらえる環境～

Q3 職場環境について

上司の方々は分からないことや素朴な疑問など、どんなことを聞いても丁寧に教えてくださります。また仕事の内容上、他の部署の方とも話す機会が多いのですが、どなたも親切に対応してくださり、非常にありがたく思っています。休暇も1時間単位で取得することができるので、プライベートとの両立も十分に可能です。総じて、非常に働きやすい職場環境だと思います。





橋本 航一

R3採用 地方参事官室（京都府拠点）

皆さんへのメッセージ

公務員試験対策としては、ひたすら過去問を解き、確実に解ける問題を増やしていました。また、志望理由や自己PRなど面接で質問される内容を、友達と話しながら深掘りすることで何を質問されても自信をもって答えられるように準備していました。コロナ禍での就活でいろいろ大変なこともあると思いますが、体調に気を付けて頑張ってください。

～現場と農政を結ぶ業務～

Q1 今担当している業務は？

私は地方参事官室京都府拠点に所属しており、市町村や各関係機関への政策や予算の説明、そして農業者との意見交換、課題への対応などのいわゆる現場と農政を結ぶ業務を担当しています。現場の意見・要望等を直接聞き、雰囲気を感じ取れることは貴重であり、現場と農政の橋渡しの役割を担えていることにやりがいを感じています。

～生産現場に近く、食と農に携われる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学時代、農学部で農業経済や地域振興の分野を専攻しており、食と農に関する仕事に就きたいと思っていたので、農林水産業に広い分野で関わることができ、かつ、生産現場に近い近畿農政局を志望しました。近畿農政局は、気さくで優しい職員の方々が多く、職場の雰囲気が温かいのが魅力だと思います。

また、研修や勉強会が充実しており、業務に役立つ知識やスキルを身に付けられる機会が豊富であることも魅力です。

～相談しやすく、一緒に考えてくれる～

Q3 職場環境について

仕事で分からないことは上司に聞きやすく、丁寧に教えてくださったり、一緒に考えてくださったりします。残業はほとんどなく、休暇も取りやすい環境です。

入省前のイメージと違った点は、部署によっては年が近い職員が少ないことです。私が所属している部署は農業者との意見交換などで様々な政策に関する知識が必要となりますが、豊富な知識を持った職員が周りにいてくれるので、安心感もありますし、学ばせていただくこともたくさんあり、非常にありがたいと感じています。その分、同期との関係も大切にしています。





平山 諒太郎

R3採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

筆記試験の勉強に加えて面接対策、説明会への参加など大変な毎日かと思います。私は面接に苦手意識があったので、大学のキャリアセンターや新卒応援ハローワークなどをよく利用して、色々な方に相談したり、模擬面接を受けたりしました。経験を多く積むことで本番の自信に繋がると思います。また、国家・地方関係なく、様々な官庁の説明会に参加することをおすすめします。職場の雰囲気を感じたり、分からないことを質問したりすることで、自分に合っているな、働きたいなと思うところを選んでいただけたらと思います。その中で近畿農政局を選んでいただけたら、嬉しいです。皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。

～第一線で活躍してくことにやりがい～

Q1 今担当している業務は？

現在は用地係で、業務運営の基礎となる要領細則や通知集の改正業務、近畿農政局管内にある事業所や府県の用地補償業務実績を取りまとめ、本省へ報告する業務、地権者の調査に必要な戸籍謄本・抄本、住民票、登記事項証明書、公函などを取得する業務、工事に必要な土地の使用や補償の契約手続きに関する業務などを担当しています。

用地に関する法令や用語などは難しいものが多いですが、本で調べたり、上司に質問したりするなど学ぶことが多く、日々成長を感じています。土地の境界を決める作業に立ち会った際には、これまでに勉強した作業の手順や係長が地権者に説明する様子を自分の目で確認することで、今後私も第一線で活躍していくことにやりがいを感じました。

～安心・安全に暮らせる社会を作りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食を安定かつ効率的に供給することで、人々が安心・安全に暮らせるような社会を作りたいと思い、志望しました。小さい頃から防災に関心を持っていたことや祖父が農業をしていたこともあり、生まれ育った近畿で、自然災害に強い農業農村の整備を実施している近畿農政局に魅力を感じました。

また、業務説明会でお話した職員の方々の雰囲気、自分に合っていると感じたことも決め手の一つとなりました。



～休暇が取りやすい雰囲気～

Q3 職場環境について

分からないところがあれば、上司や先輩など周りの方が何でも教えてくださいますので、非常に働きやすい職場です。

休暇については、業務と調整しながら、上司が積極的に取るように言ってくださいますので、取りやすい雰囲気です。有給休暇は1時間単位で取得でき、夏季休暇と年次有給休暇を組み合わせると連休をつくることもできます。





伊藤 翔太

R3採用 経営・事業支援部輸出促進課

皆さんへのメッセージ

就活中は勉強や面接対策で忙しいと思いますが、1か所にこだわりすぎず、多くの説明会に参加し、「ここで働きたい。ここでも働きたい。」と思える職場をいくつか見つけておくと良いかと思います。不安や緊張でソワソワする気持ちもわかりますが、「休む」ことを大事にもらえると思います。体力・気力ともに充実させ、本番に万全の体調で臨むためにも、体調にお気をつけてお過ごしください。皆さまと働ける日を楽しみにしております。

～「輸出」という政策の大きな柱に携わる～

Q1 今担当している業務は？

現在は、輸出促進課という部署で、輸出に取り組む事業者の支援等を行っており、特に補助金関連の業務に関わっています。パンフレットでも見てもらったかもしれませんが、「輸出」は農林水産省の政策の大きな柱であり、一年目からそのような政策に携わらせていただけるのは、大変勉強になります。

最初は要綱・要領等の規則類の把握や、輸出の現状や施策の勉強等、難しいものが多かったのですが、業務を行ううちに、申請の流れがつかめたり、業務の理解が少しでも深まったりしたときに、「勉強した甲斐があった」と感じます。

また、加工品などの1次産品以外のものに関わる機会が多く、農業・林業・水産業以外にも接することができるのは意外な一面でした。

～現地で見聞きしたことがモチベーションにつながる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

元々、私が日本史を専攻していたこともあり、日本の文化に根差した「和食」に興味を抱き、日本の食文化の保護・継承や、年中行事と関連した食文化の普及に携わりたいと考え、近畿農政局を志望しました。

今年度はコロナの影響で出張等は少なかったのですが、大阪市場のセリの見学や、他課の過去の交付金事業での建造物の確認など、現地を見て、声を聞いて…という機会を積極的に作っていただける点は魅力でもあり、自身のモチベーションにもつながるのかなと思います。

～自分の時間を確保しやすい職場～

Q3 職場環境について

今まで全く触れてこなかった分野の仕事なので、わからないことばかりですが、上司に聞きやすい雰囲気を作られていたり、業務の対応についても気軽に相談できるため、非常にありがたいです。

休暇については、年次休暇を取ることが推奨されており、上司からも声をかけていただいたり、また、1時間単位での休暇も取れたりするので、休みは取りやすいと思います。

総じて、自分の時間を確保しやすい職場だと感じています。





中島 美瑛

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

公務員試験は筆記試験や面接練習など先が見えず、不安になることもあるかもしれませんが、私の場合は、面接が特に不安でした。

面接で話す内容を事前に考えておくことは重要ですが、それを一言一句暗記するのではなく、自分自身の言葉で話す練習をすることが個人的にはおすすめです。当日は面接官の皆さんが私の言葉に真摯に耳を傾けてくださったので、リラックスして挑むことが出来ました。無理に自分を飾らなくても、自分らしく話すことできっと熱意が伝わると思います…！皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしております。

～コミュニケーションを通したやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、会計課の調達係に所属しています。職場で普段使用しているプリンタや公用車、レンタカーの利用に関する支払業務など、主に局内で働く職員の方を支えるような事務一般を行っています。

入省前は、「会計課」といえば一人で黙々と書類に向き合っただけというイメージがありました。ですが実際は、業務を行う上で課内の職員はもちろん、他部署の担当者や業者の方とコミュニケーションをとる機会も多く、やりがいを感じながら仕事をしています。

～行政から日本の食や農業を支えるという魅力～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

中学生の頃の修学旅行で北海道に行き、ファームステイ先の農家の方とお話した経験がきっかけで食や農業に関心を抱きました。そして、就職活動中に近畿農政局の説明会に参加し、行政の立場から日本の食や農業を支えるという選択肢に魅力を感じたため、志望しました。

また、説明会や座談会に参加した際、職員の皆さんがとても穏やかで優しく、「このような雰囲気の良い職場で働きたい」と考えたため、近畿農政局に就職することを決めました。

～職員が働きやすい環境が整っている～

Q3 職場環境について

上司や先輩方は優しく和やかな方ばかりで、毎日楽しく働きやすい環境だと感じています。周りの方に分からないことを質問すると、ご自身のこれまでの経験や知識を踏まえて丁寧に教えてくださり、日々勉強になります。

また、職場内では積極的に年次有給休暇を取得することが推奨されており、仕事とプライベートのどちらも充実させることが出来ています。



(2022年度時点)



平野 智司

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

筆記試験・面接対策等で忙しい中、ご覧いただきありがとうございます。就活中は、不安なことも多く大変だと思いますが、ここまで頑張ってきた皆様は、間違いなく成長していると思います！

休むことに不安を感じることもあると思いますが、やる気が起きないときは、休憩するのも1つの手です。やるときはやる、休む時は休むというメリハリをつけて最後まで諦めず頑張ってください！皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。

～幅広い業務を理解し、できることが増えていくやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は会計課調達係に所属しています。主な業務内容は、物品の購入や物品の管理に始まり、システムでの支払処理や業者対応など多岐に渡ります。業務の幅が広く、初めは分からないことが多かったのですが、徐々に仕事を理解し、できることが多くなっていくことに、非常にやりがいを感じております。

～日本の食文化を次の世代に残したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

学生時代から、日本の伝統的な食文化である「和食」について勉強しており、日本の食文化を次の世代に残したいという思いをもっていました。そこで、「食」にかかわる仕事且つ地元で働ける近畿農政局を志望しました。ほかにも、地方自治体などを受験していましたが、説明会や官庁訪問時の雰囲気から惹かれ、近畿農政局に就職することを決めました。

～安心して仕事に取り組める環境で ワークライフバランスも充実～

Q3 職場環境について

分からないことや不安なことがあった場合は、上司の方々が分かるまで教えてください。安心して仕事に取り組むことができます。また、残業はほとんどなく、退勤後の時間は有意義に使うことができます。また、休暇も好きなタイミングで取ることができ、私自身、趣味のサッカー観戦で全国を飛び回っています。ですので、推し活など自分の時間を確保したい方には良い環境だと思います。（ちなみに、私の推しはJリーグの京都サンガF.C.です！）



(2022年度時点)



目木 春佳

R4採用 生産部園芸特産課花き・特産係

皆さんへのメッセージ

就職活動中は、周囲の人と自分を比べて不安になることもあるかもしれません。でも、自分自身のことをよく知り、その考えに正直でいることが、自信を持つための秘訣なのではないかと思っています。そのためには、就職活動に限らず様々な経験を積んで、やりたいことを探す時間をつくることも大切だと思います。

長期間、筆記対策と面接対策を平行して進めていかななくてはならない公務員試験は大変なことばかりですが、皆様の就職活動が悔いの残らない結果となるよう応援しています。

～様々な側面から花きの振興を支援～

Q1 今担当している業務は？

生産部園芸特産課で、近畿管内における花きの生産振興や消費拡大に関する業務を担当しています。

補助金関連の業務を中心に、花き需要喚起のための局内展示やホームページ等での情報発信、花き関連の協議会の運営など、様々な側面から花の振興を支援しています。また、国の事業で導入した施設や、優れた技術・知識を持った生産者のもとに出向き、意見交換や現地調査を行うこともあります。

現在の業務は生産関係をはじめ、小売や市場関係、他の行政機関など、幅広い立場の方々と関わりを持ったり意見を交えたりすることができ、勉強になることがとても多いです。

～農業を取り巻く環境を魅力的にし、幅広く貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

祖父が農業に携わっており、そこで高齢化による耕作放棄地の問題を知ったことが、近畿農政局に関心を持ったきっかけでした。近畿農政局の業務への理解を深めていくうちに、農業を取り巻く環境をもっと魅力あるものを通して、担い手問題だけでなく地域振興や文化・産業の発展などといったことにまで幅広く貢献できると知り、志望しました。

～様々な経験を積むことで 日々成長できる職場～

Q3 職場環境について

積極的に様々な経験をさせようとしてくださる職場だと思います。私は事務系で入省し、農業に関する専門知識は、ほとんどない状態からのスタートですが、所属・担当をまたいだ研修や意見交換、現地調査等を通して、少しずつ分かることも増えてきたと感じています。日常業務においても、分からないことや初めて取り組むことなど、よく気にかけていただいております。

また、テレワークや時差出勤などの制度が浸透していて、実際に多くの方が利用していることを入省してから知って驚きました。人それぞれの生活にあった働き方ができる環境が整っていると思います。



(2022年度時点)



稲垣 諒太

R4採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

私は、できるだけ多く説明会に参加することが大切ではないかと考えています。私は、行政職のほかに公安職や独立行政法人、地方自治体など様々な官庁の説明会に参加しました。その中で職員さんとの会話や業務説明で興味のある事柄かどうかを確かめ、気になる官庁は何度も説明会に参加し知識を深めました。

また、様々な官庁を回ることで知識が増え、面接のときに話す種にもなりますし、色々回ったうえで「ここに行きたい。」という話もできますのでお勧めです。

筆記試験や面接試験の勉強、志望官庁等の説明会への参加で大変な毎日かと思いますが、体調に気を付けて最後まで頑張ってください。

～本局から現場の用地補償業務を支える～

Q1 今担当している業務は？

現在は局の用地課用地係に勤務しており、業務内容は、土地の買収や補償（用地補償）事務の流れをまとめた要領・細則の改正作業、管内国営事業所において前年度実施された用地補償業務の実績を取りまとめ本省へ報告する作業、事業所で行う土地の買収・使用価格が適正に算定されているかの確認作業などの業務を地区担当の専門官や係長と協力し行っています。

局の用地課では、土地の買収・使用に直接関わることはありませんが、前述のように確認・助言をする形で間接的に関わっており、助言したことが納得されて、採用された際にはやりがいを感じます。

～農業インフラ施設に携わり、食糧問題解決に関わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

元々インフラ関連に軸を決め、就職活動を始めました。調べる中で農政局はダムや農業用水路といった農業インフラ施設に携われる点や、農業農村整備事業を通じて強い農業生産基盤を作り、日本の食糧問題解決に関わりたいと思い志望しました。

また祖父が食糧庁の職員だったことや、実家が農業をしていたこともあり農業が身近な存在だったことも理由の一つです。

配属先によっては行政系採用者であっても現場に出ることがあるため、内勤と外勤の両方をしたいという方には魅力的な職場なのではないかと思います。

～明るい雰囲気ですぐに 疑問を解消できる環境～

Q3 職場環境について

課内の雰囲気については、皆さん明るい方が多く、よく話しかけてくださります。そのため質問もしやすく、すぐに疑問を解消できる環境だと思います。特に入省直後は疑問を解消する方法すら分からなかったため、すぐに疑問を解消できる職場には、非常に助かっています。

入省までは農政局の仕事柄、職員は農業関係者が多いイメージを抱いていましたが、私たちの年代では農業関係者は少ない状況ですので、農家でないからだめだというわけではないのでご安心ください。



(2022年度時点)

御覧いただきありがとうございました！！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HPに掲載しています。



【近畿農政局採用HP】

- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

御不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。